研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-169	A-152	20-062	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Smoking and drinking among patients with mental disorders: Evidence from a nationally representative Japanese survey
精神疾患患者における喫煙および飲酒：日本集団を代表する調査によるエビデンス

執筆者

Okubo R, Tabuchi T.

掲載誌

J Affect Disord. 2021 Jan 15;279:443-450. doi: 10.1016/j.jad.2020.10.037.

キーワード	PMID
精神疾患、喫煙、飲酒、アルコール摂取、不安及び抑うつ症状	33120245

要　旨

目的：精神疾患と喫煙並びに飲酒行動について、不安および抑うつ症状とは独立して検討した研究はなく、日本における行動変容の介入対象の検討のため、年齢及び性別で層別し検討した。

方法：本研究は横断研究である。2016 年国民生活基礎調査（自己申告式アンケート）で入院や施設入所のない 20～79 歳を対象に喫煙、日常的な重度喫煙（1 日 21 本以上）、危険性のある飲酒（1 週間 100g 以上のアルコール）、重度飲酒（1 週間 350g 以上）の有病率比（PR）を log-binomial 回帰分析を用いて潜在的な交絡因子で調整し算出した。精神疾患は、うつ病などの精神疾患および認知症とした。年齢と性別で層別し有病率と PR を傾向スコアで算出した。

結果：340,194 名中 8275 名（2.4%）が精神疾患を有し、精神疾患の有無は現在の喫煙（PR=1.18, 95%CI=1.12-1.23）及び日常的な重度喫煙（PR=1.35, 95%CI=1.21-1.50）と有意に正関連し、危険性のある飲酒（PR=0.70, 95%CI=0.66-0.75）及び重度飲酒（PR=0.76, 95%CI=0.69-0.85）と負の関連を示した。 喫煙習慣の PR は男性より女性、他の年齢層よりも若年層で高く、特に若年層の女性で高かった（現在の喫煙者 PR=1.67、日常的な重度喫煙者 PR=2.17）。不安及び抑うつ症状は、現在の喫煙および日常的な重度喫煙と独立して有意に関連した（PR=1.12, 95%CI=1.09-1.16、及び PR=1.31、95%CI=1.23-1.40）。

結論：精神障害と喫煙習慣の関連性は、不安や抑うつ症状と独立することが示された。日本の精神疾患患者、特に若年女性への行動変容への介入の必要性を示した。